

三浦環とプッチーニ像

第二次世界大戦後、日本は連合国軍に占領され、旧グラバーハウスは将校の住居として徴用された。最後に住んでいたのはアメリカ陸軍大尉のジョセフ・C・ゴールドズビーで、妻のバーバラと一緒に住んでいた。この家の風景とユニークなデザインに感銘を受けた夫婦は、プッチーニの有名なオペラ「蝶々夫人」にちなんで「蝶々夫人の家」と愛称をつけた。このオペラは、長崎に住む日本人の若い花嫁が、米海軍将校である夫の帰りを待ち続ける物語である。

蝶々夫人とは縁がなかったものの、1949年にこの夫婦が去った後も愛称は変わらなかった。占拠が終わった後、三菱重工業に戻され、1957年に長崎市に寄贈された。翌年には一般公開され、長崎市は "蝶々夫人ゆかりの地" として宣伝した。1963年には、蝶々夫人を2,000回以上演じたことで有名なプリマドンナ三浦環(1884~1946年)の銅像を建てた。近くにあるジャコモ・プッチーニ像(1858~1924年)は、1996年にイタリア・ルッカ州の友好のシンボルとして寄贈された。

採用番号 NO :	023-018
-----------	---------